

令和2年度第1回経営会議 会議概要

1 開催日時

令和2年6月26日（金） 13：30～15：30

2 場 所

本部棟3階 大会議室

3 出席者（委員12名中11名出席）

学外委員：平賀委員、山本委員、谷村委員、米谷委員、木村委員、横向委員
（欠席：相澤委員）

学内委員：千葉委員、鈴木委員、堀江委員、石堂委員、狩野委員
その他、各本部長、各学部長、各室長及び関係職員が出席。

4 審議事項及び審議結果

(1) 令和元年度決算について

ア) 令和元事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

イ) 収支決算（監事監査報告を含む）について

業務の実績に関する報告書及び収支決算について、狩野委員及び堀江委員から説明し、質疑を経て、原案のとおり承認された。

5 情報提供

(1) 岩手県立大学の本年度重点取組について

岩手県立大学の本年度重点取組について、鈴木委員から資料に基づき説明した。

6 その他

(1) 新型コロナウイルス対策について

本学の新型コロナウイルス対策について、事務局から資料に基づき報告した。

(2) 新型コロナウイルス感染症拡大に係る本学の経済的支援について

新型コロナウイルス感染症拡大に係る本学の経済的支援について、事務局から資料に基づき報告した。

7 意見交換等

学外委員の意見・質問等に対する学内委員及び事務局等の回答は、次のとおり。

- 業務実績の内容について（審議事項（1）ア）関連）

令和元年度の事業年度に関わる業務実績の中に、令和2年度に実施するような今後の取組が資料に盛り込まれていることについて質問があり、令和元年度中に計画を見直したことについての評価となり、令和2年度に業務を実施することとした旨回答した。

また、大学基準協会への提出について質問があり、今回の資料は県に提出するもので、基準協会へは7年に1度の報告となっており再来年度に報告する予定である旨回答した。

さらに、大学基準協会からの前回の指摘について質問があり、改善計画についていくつか指示され、昨年度に回答し昨年度末に認められた旨回答した。

- 項目別評価から見た大学の経営状況について（審議事項（1）ア）関連）

計画どおりに進んでいるというA評価が91%であり経営状況が良好との意見について、設置者である岩手県から非常に理解をいただき、様々な部分で運営交付金という形で対応していただいていることがひとつの大きな要素だと説明した。それ以外でも、経費の削減に努めつつ必要なものに必要な財源を投資することを原則として行っており、今回の新型コロナウイルス対策等こういった形で対応することが必要だと感じている旨説明した。

- 項目 No.10 国際化・グローバル化への取り組みについて（審議事項（1）ア）関連）

AA評価となっているが英会話交流イベントについて、7回開催し延べ58人の参加で1回当たり8人程度では参加人数が少ないのではとの質問に対し、昨年度試行的に行ったものであり、人数の目標数値は設けていなかったが、比較的学生からも好評だったということで実績のひとつとした旨回答した。

- 外部資金について（審議事項（1）ア）関連）

外部資金比率が他大学と比べて低く金額的に昨年より下がったが、改善が図られ計画通り進んでおり、今後外部資金獲得比率が上昇することからA評価としたことについて質問があり、金額はどうしても分野によって大口小口と偏りが出るものの、応募の数が過去最高となっていること、学長をトップに支援チームを編成し応募率、採択率も上がっていることからA評価とした旨回答した。

また、件数が増えてきたことは素晴らしいことであるが、次の目標として金額で結

果を出すということかとの質問に対し、その通りである旨回答した。

なお、科学研究費には今までより2倍以上の応募となっているが、申請書が本人しか分からない状況であったことから、去年から全部チェックして素人でもわかるような書き方をするよう指導してきた結果、採択率が上がった。今年はそれを強化して採択率を上げたい旨補足説明した。

- 学生アンケートの改善方針について（審議事項（1）ア）関連）

学生アンケートの改善方針について質問があり、もともと授業自体の改善のためにアンケートを採っていたが、かなり前に決めた項目であり、カリキュラム自体も変わってきており見直す予定であった。同時に教学I Rの観点からもアンケートを利用することについて声があったことから、令和2年度に併せて検討したほうが良いということで見直しまでは至らなかった旨回答した。

また、アンケート結果等については各先生方に指導みたいなことをしているのかとの質問があり、アンケート結果については先生方にデータとして返すとともに、先生方には自己評価していただき、それを学部でフィードバックする方式となっている旨回答した。

- 運営交付金の額について（審議事項（1）ア）・（2）イ）関連）

運営交付金は絶対額が毎年減っているのかとの質問に対し、現在の第3期中期計画中は第2期の実績をもとに県と協議を行い、ベースとなるところは中期計画期間中の6年間は同じである旨回答した。

また、大学も20年経過し維持修繕経費が掛かってくることから目的積立金を用意しているところであるが、基金も準備しつつ長期的な視点で整備していく旨補足した。

- 大学の自己評価、大学への評価の方法、中間評価について（審議事項（1）ア）関連）

評価方法について達成度評価になっていることから、一般的に大きいチャレンジなことは書けない、達成までの努力は評価しないという話がされた。加えて、これは日本の評価システムの一つの欠点の表れであり、文科省の審議会に出て言っても変えられない状況もあり、大学の中では少しチャレンジなことも言えるようにしている旨説明した。

この評価に基づく交付金の減額について質問があり、報告書は原案であり各項目について厳しい御意見があったりAがBになったり指摘はあるが、交付金については、評価によって変動することはない旨回答した。

また、6箇年のうち2年が経過した時点の進捗結果について質問があり、中間評価を4年目に行うため、今年度にその中間評価に向けて数値化出来ているものは数値

で評価するなどトータルとして評価する予定である旨説明した。

さらに、県の評価委員について質問があり、県の評価委員の委員長は岩手大学の中で評価が専門の先生、他に民間の方であれば、会計士や男女複数の先生方、東北大学のある程度評価に詳しい先生等、外部の見識ある先生方となっている旨回答した。

- 学生側からの大学の評価を見る方法について（審議事項（1）ア）関連）

現在のアンケートでは不十分であり、利用者（学生側）にもっと踏み込んだアンケートを作らないとまずいのでは、他の大学だとそういった所はかなり踏み込んでやっている状態だとの意見があった。これに対し、他大学の状況なども勉強させていただき、ご指摘のような検討が出来るよう努力したい旨回答した。

- 先生方と職員の人数構成について（審議事項（1）ア）関連）

先生方 228 人・職員 100 人の構成だが、これはどれくらいの構成比が妥当なのか、また、職員が 9 名程減っているというのは業務の効率化が図られているということなのかという質問があり、毎年度のベースアップの中で何とか教員の数は現状維持し、職員は毎年一定程度人数を調整していくことを現場で定めている旨回答した。

また、教員の比率を今より高めていくことが望ましいのかとの質問に対し、7 年前に有期雇用の職員を無期に転換したことから常勤職員の比率が高まっていること、学生の教育の充実から教員の数を増やすことは大事であるが、本学の場合は教員 1 人当たりの学生数は他の公立大学と比べて非常に少なく細かいところに目が届くような割合になっており、学生の学習とか教育、様々な活動の支援を行っている旨回答した。

さらに、問題は職員の中の質であり、例えば技術系職員がいないこと等質の問題で改善する余地は十分ある旨補足回答した。

- 入試の枠組みについて（審議事項（1）ア）関連）

志願者が減少したことについて、県内の高校卒業者が減少したことにより志願者が減少したという理由ではないと思われるが、なぜ減少したか分析しているかとの質問があり、一昨年度の入試倍率はかなり高く、翌年度は下がる傾向がある。入試倍率については学部等によっても違うので、入試担当で分析しつつ出来るだけ多くの高校生に受検していただくよう努力する旨回答した。

また、県内の生徒にもう少し手厚くできないかとの質問に対し、本学の場合設立のときから各学部の 3 割が県内の高校からという枠にしてあり、さらに実業高校となると考えていかないと難しい部分がある旨回答された。また、今年度高校で聞いている限りでは、センター試験の成績で志願を諦める流れはあるようだということで、センター試験等も一つの要因として、大学としても難しいが、今後どうするか考えてい

きたい旨説明した。

なお、岩手県の人がもっと入学できるよう入学の間口を広げ、来てもらったら伸ばして卒業させるという仕組みを検討いただきたいとの要望があった。

- 大学の休学・留年・離学者について（審議事項（1）イ）関連）

大学についていけない、又は経済的な問題でやめてしまう学生も結構いるのかとの質問に対して、（四大学部の）休学者数は29年度32人、30年度67人、留年者は29年度40人、30年度47人、離学者は退学と除籍も含めて29年度33人、30年度58人と、30年度はかなり増えている旨回答した。また、経済的な理由での退学と、他のことをしたい、分野を変えたいという理由での退学は結構いる旨回答した。

また、学部毎の状況について質問があり、30年度に看護学部が3名、社会福祉学部が11名、ソフトウェア情報学部が32名、総合政策学部が12名となっており、盛岡短大が2名、宮古短大が4名となっている旨回答した。

- 大学を卒業した後の就職について（審議事項（1）ア）・イ）関連）

大学に入って、その先自分が何をやるのか・就職先とか何かをイメージさせるのが大事ではないかと思っているとの意見に対し、これからはこの大学で何を学んだか、自分は何を身に付けたかということを徹底的に意識すれば、この大学の学生たちは伸びしろがある学生が多い旨回答した。

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策下での病院実習について（その他（2）関連）

看護学部の病院実習について質問があり、4年生が5月連休明けから行った病院実習について、学生自身が感染源になる可能性や学生自身が感染してしまう可能性等を考慮し、県内ではいち早く実習を学内で代替することに切り替え、病院実習に見合うだけの実習に代替する演習に取り組んだ旨回答した。また、今週からまとめの実習や基礎実習がスタートしているが、施設からも相談して許可を受け、実習に出向いている旨回答した。

以上